

《論 文》

スポーツの教育的価値・ビジネス的 価値を考える

—スポーツマネジメント研究の視点から—

清 水 啓 司

I 著論（はじめに）

この研究は、スポーツビジネスの発展に伴う諸問題（経済的観点優先・勝利至上主義等）がスポーツの本来持つ教育的意義を歪めていることを、スポーツイベント開催・オリンピックの歴史をスポーツマネジメントの立場から顧み考察、検討しまとめた物である。そして、さらなる問題点を明らかにし、スポーツを教育の教材（手段）として生かすという立場で、スポーツの本来あるべき理想の姿について、スポーツマネジメント研究のいくつかの視点から考察した物である。

本稿は、2011年（平成23年5月21日（土曜日））奈良産業大学主催、王寺町リーベルカレッジでの講演の内容を中心に再考・整理した物である。さらに、ここ数年に及ぶ高等学校への出張講義、体育関係指導者への研修会、地域住民への公開講座、担当科目であるスポーツマネジメントの講義資料からいくつかの話題を加え執筆した。なを、高校生や体育関係の指導者（社会人を含む）に問いかけ形式で講演を展開していたために口語的表現が多くあることをご了承頂きたい。

Ⅱ 本論（論点と考察）

1 スポーツを教育教材としての手段と捉えるか、活動そのものを目的と捉えるか？⁴⁾

著者は、1976年京都教育大学、教育学部、体育科を卒業し、1977年京都教育大学、教育専攻科、保健体育専攻を修了した。1977年4月京都市立堀川高校定時制教諭となり同時に大阪教育大学教育学部、大学院修士課程に入学した。夕刻から京都市内中心部の夜間定時制高校、堀川高校の保健体育科担当の新任教諭として働き、昼は大学院生として運動学講座に所属し「基本運動の動作分析と体力の測定評価方法」を中心に学んだ。

一日の労働を終えて夜間定時制高校に毎日休まず通学することは、10代後半の若者にとっても肉体的にはかなり辛く、努力と根気を継続する強い意志が必要である。4年で問題なくストレート卒業する生徒を、その真面目さと継続的に努力する姿勢について尊敬の目で見ていた。そこでT君という素直な優等生に出会った。彼は中学時代に「いじめ」の標的にされ通学困難となり、出席日数が少なくなり成績が落ちた。希望する公立の進学高校に行けず、やむを得ず夜間定時制に通学していたのだった。T君の中学時代の体育実技の時間は、『「いじめ」のターゲットにされる時間』苦痛で、嫌で、辛い時間だったらしい。しかし、夜間定時制高校の体育実技は自由で楽しく充実していると若者らしく眼を輝かせて活動し汗を流していた。T君の担当であった先輩体育教師は、「体育の授業目的は何か？ここ夜間定時制高校では深く考える必要があるよ」と言っておられた。T君も「本来スポーツ活動は他者から強制されて、参加するものでなく、参加者が自由にルールを考え、集団の技術レベルに応じ楽しめば良いじゃないですか」とスポーツを考えていたようだ。

教育学部の体育学科を卒業した著者は、軍隊式の集団行動と規律遵守・基礎体力の向上、他者との闘争心育成、勝利至上主義の体育会系の頭に洗

脳されていた。先輩の先生やその指導を受けたT君の考え方に衝撃を受けた。T君の成育歴と先輩の先生の指導からくるこのスポーツに対する考え方、捉え方を受け入れるまで、少なからず戸惑いがあった。その後、T君は、京都教育大学教育学部、数学科に進み、京都市内で小学校の教諭になっていろいろな研究活動の場で、仲間を巻き込み活躍していると聞いている。スポーツを教育の一つの手段（教材）と考え教育に利用する教育志向型、体力向上の手段型（運動刺激の手段）、気晴らし・楽しさを追求型（遊びの学び）スポーツ活動そのものの文化的意義を学ぶことに意義があるとする考え方（運動文化論型）。まだそれ以外にスポーツはいろいろな捉え方、「型」があることを指導現場へ出てすぐに深く考えさせられたのだった。

2 スポーツを薦める理由

（スポーツ体育関係者として「我田に水を引く」⁴⁾根拠）

命題1 『健全なる精神は、健全なる身体に宿る』は真か偽か？

この言葉は、古代ローマの詩人、ユベナリウス（西暦60年～130年）がローマ皇帝やローマ市民に向けて発言した言葉だといわれている。その意味は、コロッセオなどのローマ帝国内の都市にある闘技場で奴隷と猛獣を戦わせたり、グラデユエイター（奴隷戦士）同志の格闘をさせたり、生死を賭けた戦いを見世物として楽しみ、熱狂していたことを批判した言葉であった。その様子について、もっと大切な政治的配慮（パンを大衆に与えて人気取りをするだけの政治で良いのか、単純に喜び、享楽にふける大衆のままで良いのか）があるのではないか、何のため肉体を鍛錬しているのか、と批判的に述べたものだと言われている。

Mens sana in corpore sano（ラテン語）希望表現「～なら良いのだが・・・しかし、」

A sound mind in a sound body（英語）断定表現「～である。～に違いない。」「アメリカの運動生理学（カルボビッチ著）の教科書に引用さ

れ、断定的表現で記述された。」「1960年前後、東京オリンピックに向けて、アメリカに体育・スポーツの科学的指導方法を学ぶために海外研究留学に出た日本の大学体育関係者が、カルボビッチ教授の教科書と研究室に掲げられたパネルのこの英語表現を、「我が田に水を引く優れた標語表現」として持ち帰り、日本国内に広がったのだろう。」と、大学院指導教授に歴史的背景も含めて講義で聞いた。著者の指導教授であった佐々木美雄教授は、1960年代にアメリカに留学され、最新のトレーニング理論を日本に持ち帰り紹介した。また、文部省が1961年（昭和36年）実施スタートさせたスポーツテスト（体力診断テスト・運動能力テスト）の原案を作成したチームの中心メンバーの一人でもあった。専門分野のコメンテーターとしてTV出演も多数あり、マスメディアに登場した体育スポーツ関係の最初の研究者の一人であった。体育学会の測定評価分科会のコアメンバーでもあった。

命題2 『スポーツは、体に良い』は真か偽か？³⁾

「運動は劇薬である！」小野三嗣教授（運動生理学者）の言葉、ある個人にとっては、不適切な運動負荷は、強度が低くても死活問題となる。個人的なメディカルチェックが必要である事は今日では周知の事実である。

運動処方の問題であり、運動生理学、体力科学、発達発育の立場から説明できる。スポーツに対する志向の型で運動の処方是个々に考えられる。スポーツに求める志向の型には、勝利至上主義型、競技志向型、健康志向型、技術志向型、趣味志向型（自己満足型）などがある。1980年代、アメリカにおいて健康志向型スポーツ（エアロビックス）としてジョギングを推奨し世界的大ブーム（ランナーズの編集長）を起こした張本人、Jフォックス氏がジョギング中に52歳の若さで急死した。この事実は、スポーツ関係者にとって、あまりにもショッキングなニュースであった。その後、安全性に優れたウォーキングのブームが世界的に広まった。

『最高心拍数=220-年齢』という公式で運動強度は心拍数で推定できるし、安静時心拍数、準備運動時の心拍数、一回拍出量、分時拍出量など知り管理することで、インターバルトレーニングなどの科学的根拠が明らかにされ、運動生理学研究に基づく運動処方が可能となった。また主観的運動強度（RPE）などの指標を利用して、大掛かりな測定器具を必要とせず、「頑張りの度合いと余力」を知り安全に運動に取り組むことが可能となった。

ロサンゼルス大会で下腿を骨折していても、足を引きずり道場（たたみ）に上がり金メダルを取った柔道家（山下康裕選手）を賞賛した。足首の骨が亀裂骨折しているのにテーピングをして7連覇のためにグラウンドに向かってスターラガーマン（松尾雄治選手）に感動した。手首を骨折していてもバッターボックスに立ち片手でヒットを打つプロ野球選手（金本知憲選手）を鉄人と賞賛している現実がある。その様なプロ選手、競技志向型の頂点の選手の行動・プレー・勝負魂を、将来ある発育期の若年スポーツ選手に求める根性主義の指導者がいることが問題である。誤った指導のために好きな競技を去る有望選手が多数いるのが現実であろう。若い選手の将来の可能性を摘んではならない。スポーツ医学、発育発達論、体力科学の基礎知識に基づく、運動処方の知識は必要である。どの年代のグループでもサッカー日本代表として活躍したスター選手（中田英寿選手）がいた、逆に、若い年代で代表になれなくても、最終的に日本代表で大活躍する優秀な選手（中村憲剛選手）のような大器晩成型がいる事実を指導者は知り、理解し個別に指導しなければならない。

命題3 『スポーツは、良い子を育てる』は真か偽か？⁸⁾

スポーツマネジメントの課題である。経営資源として、ヒト、モノ、カネ、情報の適切なコントロールと条件整備が必要となる。

＜青少年スポーツの問題点＞

・スイミングスクールの学習塾化

保護者専用の、2階のぞき部屋から応援激励が飛び、〇〇君に負けるなー叫ぶ親。

勉強で負け、スポーツでも負け挫折感を味わう子供がいることを知ることが大切。

- ・選手のスカウト合戦、越境入学、推薦入学

ミニバスケ選手単一学区15人ルールが存在がある。住民登録を移動させる現実。

本人が望まないのに、勝利チームのメンバーになるため家族の生活を犠牲にする親。

- ・服装、ヘアスタイルの行き過ぎた指導

バレーボールの決勝戦は、女子対男子ですか？全員スポーツ刈りの女子児童選手。

女子児童のスポーツ指導に高校野球の発想を持ち込み、行き過ぎた信念の指導者。

- ・プロ選手を真似るジュニア選手

シミュレーションによりペナルティーを要求する少年サッカー選手。うまいと褒める親。

スポーツにおけるジェントルマンシップを学ばせようとしないう指導者・親が問題。

- ・燃え尽き症候群とスポーツ障害の発症

少年団引退後スポーツが嫌いになる。生涯楽しめるスポーツとの出会いをさせる？

無理をさせスポーツ障害で少年選手をスポイルする、自分が勝ちたい指導者。

- ・行き過ぎた体重コントロール

減量のため栄養失調状態で競技をしていた陸上長距選手、発育不全の体操選手。

「3つの命題」は、全て『～であるとは限らない』、『～であつたら良いのに・・・』部分否定される命題である。『逆は必ずしも真ならず』であることも認識しなければならない。

3 『3つの心理実験』からスポーツを考える

実験1 『セーリックマンのハンモック犬の実験』⁸⁾

ハンモック犬とは、電気コイルを巻きつけたハンモックに犬を入れランプがつくと電流が流れ痛刺激が与えられ、最初はもがき逃げ出そうとするが、ランプが消えると電流が遮断され、痛刺激から解放される、以上を繰り返し学習させられた犬のことを言う。その条件付けられた犬と普通の犬の行動を比較する実験がある。

アルミホイルを敷き詰めた床を飛び越すことが可能な高さのフェンスで囲い、その床に普通犬とハンモック犬を入れ通電し反応を比較する。通電の合図のランプを点灯し、アルミホイルの床に電流を流すと普通の犬は、もがき、反応しフェンスを飛び越え素早く脱出する。しかし、ハンモックで条件づけられた犬は、ランプが消えるまで逃げ出さず痛刺激に耐え我慢する。逃れられない電気ショックによる無力感が形成され、フェンスを超えようとする回避行動そのものを試みないことが明らかになった。

スポーツの場面で、いつもチームが勝負に負け、チーム内でレギュラーを外され、活躍の場が与えられないと『負け犬根性』が形成され、『無力感』が形成される。青少年スポーツで挑戦する機会が与えられない、公式試合ゲームに参加できないと『無力感』が形成され、日常生活でも『無力感』、やる気のなさ、諦めの態度が表れて問題となる。プロ野球の球団にもある。今年こそ、「3位以内に入りAクラス入りを目指します」と言う監督は、絶対優勝できない。オリンピックに出場することが最大の目標の選手は、本大会で活躍しメダルをとる確率は低い。

実験2 『ドウエックの小学生への積み木課題の実験』⁸⁾

A先生の問題は、32問中すべて正解があり解答可能な問題を提示する。B先生の問題は、32問中2問のみ正解がある。他の30問題は正解がない。後で、正解可能な2つの問題を再度やるときに、問題を手渡すのがA先生かB先生で再試験の成績に差が出る。A先生から問題を受け取るより、B先生から問題を受け取ったほうが正解できない確率が高まる。成功体験をさせる、努力が報われる、褒められるほうに指導方法としての優位性がある。青少年のスポーツ指導では、勝利を体験をさせ、褒めて伸ばすスポーツ指導が優れていることの根拠である。

野村克也⁹⁾¹⁰⁾、元楽天監督によると、プロ野球選手の指導では、褒めるだけでなく相手のタイプで指導方法を変えて対応してきたとのこと。ほとんどの選手のタイプを見抜きうまくいった。しかし、阪神監督時代に全く手に負えない選手（今岡選手）がいたと述べている。1500勝利の名将監督でも、『相手のタイプに応じた指導の全てがうまくいくとは限らない』と『指導の失敗から多くを学び対応方法を改善してきたが完成には至らない』と述べている。

実験3 『寿司屋の湯呑で漢字実験』⁴⁾⁶⁾⁷⁾

実験の手順を簡単に示す。

寿司屋の湯飲みに魚ヘンの漢字を印刷したものを知ってますか～？

魚ヘンの漢字チャレンジ、全ての魚わかるかなあ……………

魚ヘンに占うで、…アユ、鮎、正解！

次に…鮎、鯉、鮑、鮪、鮭、鮫、鯉、鯨、鯖、鯛、鰯……………

木ヘンにチャレンジどんな樹木が浮かびますか……………

木ヘンに木で、…ハヤシ、林、正解！

次に…森、松、梅、杉、椿、榎、柁……………

そこで目を閉じて問題です。正解がわかれば手を挙げ、目を開けて下さい。わからなければ、そのまま目を閉じたまま考え続けてください。

木ヘンに寸、木ヘンに（一寸法師）の寸で、何という字ですか？分かりますか？

約半数の受講者が戸惑い『村』という小学2年生で習う漢字が思い浮かびません。

魚ヘンと木ヘンでまさに魚の漢字と樹木の漢字を学習させ条件付けを行ったためです。

そのために先入観に支配されて答えが浮かばない！ということでしょう。

スポーツ場面でのセオリーに支配された作戦、負け犬根性の形成も同じであると考えられます。先入観に囚われて思考できなくなるよう条件付けされる選手たち、思考停止、紋切型の行動しかできない仲間はいませんか？条件付けされて心理トリックにかかっているのです。

4 アマチュアからアスリートへの表示転換 (スポーツ選手のCM出演、ビジネス活動⁸⁾¹⁰⁾)

1972年冬季オリンピック札幌大会からミュンヘン夏季大会の間にオリンピック憲章からアマチュア（素人）の文字が消え、アスリート（競技者）に書き換えることが提案された。

アマチュアリズムとは、オリンピック運動の創始者であるP・D・クーベルタンがその運動理念として提唱した思想で『オリンピックの出場者は、スポーツによる金銭的な報酬を受け取るべきではない』とする考え方である。

第4代IOC会長（1952年～72年）A・ブランデー会長は、アマチュアリズムを支持していた。アルペンスキー選手の用具メーカーから利益供与とその見返りの宣伝広告活動の関係について反対する立場の意見を持って

いた。札幌大会の直前にもオーストリアのC・シュランツ選手がクナイスルスキーに「名前や写真を広告に使わせた」として、アマチュア規定違反で開会式前に追放した。直前の世界選手権の3種目のチャンピオンで実力ある選手に出場の機会を与えなかったと問題になり自身の会長職退任を早めたと言われている。1974年、第5代IOC会長にキラニンが就任し、オリンピック憲章からアマチュア規定が正式に削除された。

近代スポーツの誕生とジェントルマンシップの関係について次のような逸話がある。1863年イギリスでサッカー協会が設立し、大衆のスポーツであったサッカーが近代化され基本ルールが定められた。しかし、ジェントルマンは意図的な反則をしない事を前提に細かなルールを定めなかったといわれている。1972年ファール地点からのフリーキックのルール改正ができ、反則と罰則がセットされるようになった。1881年ゴール前の反則にペナルティキックを実施するようになり、『ルール上の盲点をつく行為』が横行していたことを示している。今では、反則を貰おうとするシミュレーション行為を厳しく審判するようになった。当然ゴール前の『神の手ゴール』にも厳しく対応するようになった。現実と理想の齟齬があるからルールは細かく、厳しく定められていく。

競技会で選手宣誓を行うのはスポーツマンにふさわしくない行為が現実にあるからこそ宣誓させるのだとの解釈もある。ロンドン大会におけるバドミントンの決勝トーナメントの組み合わせを考えた上で、予選最終トーナメントの試合で無気力試合があったこともスポーツマンシップの問題と言わざるを得ない。高額で貴重な切符を手に入れ、世界最高水準の技術に見合うプレーを期待していた聴衆の怒りと落胆はテレビ画面からも強く感じられた。

5 スポーツにビジネスの発想を導入 (オリンピックのビジネス化と大改革)²⁾¹¹⁾¹³⁾

ピーター・ユベロスが登場し、オリンピック大会運営を根本から発想を変え、世界の都市が誘致合戦するほど魅力あるスポーツイベントに変えた。

1984年ロサンゼルスオリンピック大会から民間資本を導入し、これまで税金を消費するだけの赤字のオリンピックを黒字決算できる魅力あるスポーツイベントへと発想転換し大成功を治めた。テレビ放映権料は、ABCが2億2500万ドルで独占放映権を獲得。スポンサー契約でも、371社から30社、1業種1社に限定し、代償とし最低1社につき400万ドルの協賛金を要求した。公式マスコット「イーグルサム」の商品化を徹底し、独自の収入源にした。競技場は、1932年大会の陸上競技場を改修し、選手村は大学の学生寮を使用した。5000人のボランティアを募集し、人件費も切り詰め最終的に2億ドル以上の黒字を生み出した。この商業主義的手法は、『ロサンゼルス方式』と呼ばれその後のオリンピックに大きな影響を与えている。

6 オリンピックの開催は儲かる (スポーツイベントの開催と経済効果)²⁾¹¹⁾¹³⁾

1984年ロサンゼルス大会の黒字オリンピック決算は、ビジネスチャンスとして開催都市を奮い立たせた。1988年ソウル大会でも、テレビ放映権、代表スポンサーシッププログラムは勧められ、TOP10の会社が選ばれた。コカ・コーラ、コダック、VISA、3M、フェデラルエクスプレス、TIME、フィリップス、ブラザー工業、松下電器産業、現代自動車であった。その後の大会でも、中国の連想集団、Xerox、IBM、マクドナルド、サムスン等世界の優良企業は何らかの方法でスポンサーに登場している。

日本の都市も誘致合戦に参加し、招致費用は、名古屋（失敗）1億9430万円、長野（成功）19億5953万円、大阪（失敗）62億1124万円、東京（失敗）は前回150億の税金が支出されたと報告されている。リオデジャネイロ

(2016年)は、74億円で東京に勝利したと伝えられている。東京は更に2020年の招致を目指して活動している。

2012年ロンドン大会では、都市開発計画の一つとして跡地に商業地区が形成され若者の雇用が促進され、治安安定に貢献していると報告されている。選手村もマンションとして入居者が募集され、ニュータウンとなり活性化が促進していると報告されている。

7 勝利至上主義とドーピング問題 (勝利至上主義と経済的利得⁴⁾⁸⁾)

1960年ローマ大会自転車競技でエネマルク・イエセン選手がドーピングで死亡して以来、オリンピック、各種目の世界大会で薬物問題は継続して発生している。

1988年ソウル大会、ベンジョンソン選手100m 9秒79の幻の世界記録が薬物違反から生まれた衝撃は大きかった。このルール違反事件は、鮮明に記憶している。

ベンジョンソンがカナダへ逃げ帰った直後に、京都市立紫野高校体育コースの1年の担任として、ソウル大会に生徒を引率し空港に到着した。ライフル銃を構え軍服を着た兵士が警備を担当していた。物々しい雰囲気が空港ロビーにまだまだあると感じ生徒を含め全員身を引き締めた。

走り高飛び世界記録保持者ソトマイヨール選手がコカイン疑惑でシドニー大会出場停止。馬俊二コーチの軍団(27人)の中国選手がシドニー大会直前に参加を取りやめた。赤血球増加薬(エリスロポエチン)疑惑が理由であった。女子陸上の人気選手マリオンジョーンズ選手の薬物使用告白など、筋肉増強剤、興奮剤、マスキング剤、等更に問題が複雑化、潜伏化している。これは、オリンピック大会でのメダルの色の差は、後の競技会出場料、テレビ出演料、CM契約料の差として選手の一生の生活費に影響する。勝利至上主義は、経済優先主義に直接つながっている。ある国では、恩給や生活待遇の差になったり、徴兵義務を免除されたり、その後の人生に大き

な影響がある。何としても優勝、勝利したい強い動機が選手、スタッフにもあるのだ。

8 競技判定を巡る問題の顕在化と今後の方向について (科学的判定の導入)

2000年シドニー大会、柔道100kg超級、決勝戦、篠原信一選手対ダビト・ドイエ選手（フランス）戦、1分40秒、「内股すかし」で篠原選手が一本勝ちを確信してガッツポーズをして両手を上げた。ドイエ選手は、背中から落ちて、明らかに篠原選手の返し技に負けたと思い顔を上げた。しかし、審判はドイエ選手の『有効』の判定を出していた。試合はそのまま継続となり、篠原選手は残された時間内で逆転できなかった。判定に対する異議も受け入れられなかった。ドイエ選手は、判定が出たあと、柔道家としては誤審であることを知りながら、謙遜する態度を示さず会場をさったと言われている。篠原選手は、『自分が弱いから負けたのだ。誰が見ても明らかな勝ち方をすべきだった。』と誤審に不平を言わなかった。銀メダルを素直に受け入れた。その後、篠原選手は日本代表監督に就任した。

東京大会で、神永選手を押さえ込み勝った、アントンヘンシンク選手は、コーチ陣の興奮を制止し、最後の立礼挨拶を終えるまで紳士な態度であった、ことを思い出した。

しかし、2012年ロンドン大会に男子監督として参加していた篠原信一氏は、66kg級の準々決勝、海老沼匡対チョ・ジョンホ（韓国）戦、旗判定をめぐり混乱した時、監督として立ち上がり大声を上げ、毅然とした態度で判定に異議を主張した。自分の為でなく、努力して来た選手の気持ち、立場を理解し抗議していたのだろう。敗者復活戦、3位決定戦にまわったチョ・ジョンホ（韓国）選手も勝利し、ともに銅メダルを獲得した。この選手二人は共に判定に納得し、結果を受け入れていると言われている。柔道連盟も判定を更に高度な立場から指導するジュリーシステムの充実やビデオ判

定を採用すると声明を発表した。

フェンシング競技では、フルーレ団体準決勝の最終戦、太田雄貴対ヨピッヒ選手戦でビデオコール判定を両選手ともが求め、審判が映像を確認し、攻撃権の有無、ヘッドダウンの反則の判断に利用していた。ビデオ判定を正式に利用することがすでに合意されていた。結果、日本選手団は、団体戦で初めて、フェンシング競技で銀メダルを獲得した。

体操競技団体の最終演技種目であった「あん馬」で内村航平選手の「下り技」判定でも、審判の判断と日本選手団コーチ・監督との間で評価に差が出て混乱した。結果、日本選手団コーチ・監督の主張が受け入れられビデオ判定となった。その結果、採点が見直され団体銀メダルが確定した。その他多くの種目でも、今後、高速度ビデオを利用した判定をすることが予測される。サッカーのインゴールの判定で審判を増員する、感知センサーの導入が検討されている。科学的に確認できる事実に基づく評価・判定を優先する方向に進んでいる。冬期種目、フィギアスケート競技ではすでにビデオは導入され、回転数や着地の判定確認に利用している。

9 少年時代のスポーツ勝利の方程式と「選別と機械化」の歪み⁴⁾⁷⁾⁸⁾

運動能力の高い子供を集める。

- ① 自分で考えさせずに、機械的に繰り返し練習させる。
- ② 大人の指示にとにかく従わせる。絶対服従させる。
- ③ 足でまといい子供を排除する。お荷物は切り捨てる。
- ④ 穏やかなセレクションを実施し、諦めさせる。

スポーツの楽しさとは何か？

瞬間的な思考錯誤を他人に拘束されず、自分自身の判断で修正していくこと。そして上手くなることが楽しさの本質であると考えられる。つまり、技術の上達の喜び、可能性の追求と発見、チャレンジする楽

しさと解釈できる。一部の指導者と勝利至上主義がスポーツの楽しさを奪っている。

この勝利の方程式は、教育的視点からも、明らかに誤っている。

10 体育会系人類の人間像（スポーツ教育の目指す人物像への疑問⁴⁾）

・機械的会話に終始する部活動での人間関係

先輩、コーチ、監督、顧問の先生に対し挨拶・礼儀が大切である。ごもっとも。否定する人はいない。しかし、本根で向かい合い会話をしないと、思考停止人間、都合の良い子供、都合の良い選手になる可能性がある。「なぜ、何のためにこんな方法で練習するのですか？」を黙殺してはならない。

体育会系人間の会話は、コヨアスシ！で足りる。ケニアから留学して来たD・M君は高校生時代に徹底的に教育されていた。実に見事な好青年であり、担任として出会ったとき、奇異に感じる程よく教育されていた。本根で会話できるまで少々時間がかかった。どこか怯えていて、本根を明かさない自己防衛的姿勢を感じた。競技選手としては、全日本インカレ10000mで5位入賞し、続く後輩や留学生の手本となった。現在は日本国内で就職し立派な社会人になっている。英語のスコアも高く、真面目な努力家であった。

・『完璧』部員マニュアル（退部させられない挨拶の最低5条件！）

コンチワ！ ヨロシク！ アリガトウゴザイマス！ スミマセン！ シツレイシマス！

・『バイト採用決定』これだけ話せば採用！人材不足の激務繁盛店、店長のホンネ。

コンビニマニュアル会話辞典は、イシオアオマ（石尾阿尾馬）で足りる。イラッシャイマセ！ シバラクオマチクダサイ！ オマタセシマシタ！ アリガトウゴザイマシタ！ オツリヲゴカクニンクダサイ！ マタオコ

シクダサイ！

ただし、お釣りの算数計算は出来ること。

11 現代高校生と母親の会話（現代教育の問題点の一課題⁴⁾⁷⁾）

・母親と息子の会話は成立しているか？

「おはよう、行ってきます、ただいま、めし、ふろ、ねる」最少の言語で済ます息子。

なんでも気になり聞きたがる母親。帰宅と同時に息子を質問攻めにするが、「あ〜」本気で息子は聞いていない、生返事？あんた「聞こえてる？聴いてる？」と母、ついに息子は、「はい、はい」、「分かった、分かった」、「もおええ！」「うるさい！」

会話不成立。残念！

母親と娘は違う、帰宅と同時に会話のキャッチボール大きい声で長く続く。お見事！

テレビニュースの音が聞き取れない。異常に盛り上がる、娘と母親の会話は少し違う。

・コミュニケーションを遮断する言葉を発する若者達。

「うざい！」「ださい！」周りを否定する表現が多い。

「しょせん」「たかが」「けっきょく」相手を侮蔑する言葉、思考停止と諦めの表現が多い真面目に向き合っの親子の会話が必要だ！選手とコーチ、監督も同じだ。

「文句を言わず、黙って言われたことやれ！」が口癖の指導者に問題あり。

なぜ、この練習をするのかを理解し、目的を納得して取り組むとトレーニング効果が高い。

12 社会的勢力資源の6タイプ（人事管理、動機付け研究）¹³⁾

人は、相手の何の力によって動くか？

（コーチ、監督、教師、親の指導で、選手・子供の行動が変わる）

- ① 強制的勢力 怒られるのが怖いから従う
=>ムチの理論
- ② 報酬的勢力 成績上げる、役立つ、報奨金獲得、資格認定されるから
頑張る
=>アメの理論
- ③ 専門的勢力 指導者の知識、運動能力の圧倒的差を認めるから
=>五輪メダリスト、日本代表、国体選手、指導者のキャリアに黙る
選手たち
- ④ 正当的勢力 先生と生徒、警察官と市民など立場を認めるから
=>取り決めだから、社会的ルールだから
- ⑤ 準拠的勢力 指導者を喜ばせたい、好き、尊敬しているから
=>誰々さんを胴上げしたい、カリスマ指導者との出会い
- ⑥ 情動的勢力 何をすべきかわからないので従う
=>圧倒的情報量の差を認め従う、キャリアの差を認める選手たち

いずれにしても「納得し、内発的動機が形成され、行動する」ことが望ましい。

13 ビジネスの基本法則¹³⁾

AIDAとSCMの法則は、スポーツ活動参加、継続の原理と同じである。

・購買行動の条件（AIDAの法則） => スポーツを始める経緯

①Attention（注意）②Interest（興味関心）③Desire（欲求）④Action（行動）

・リピーターになる条件（SCM法則）＝＞ スポーツを継続する条件

①Satisfaction（満足）②Conviction（確信）③Memory（記憶）

14 マスローの欲求段階説から考える行動のエネルギー¹³⁾

一般的には自己実現の欲求がより高次の活動のエネルギーだと考えられている。

- ・自己実現欲求（意味ある存在としての機能欲求）
- ・審美的欲求（美意識と万物への愛の欲求）
- ・理解の欲求（知恵の欲求）新問題への対応能力
- ・知識の欲求（知識的欲求）知的好奇心の満足
- ・評価の欲求（社会的承認欲求）社会的役割の承認
- ・所属の欲求（社会参加の欲求）仲間としての所属欲求
- ・安全の欲求（身体的欲求）将来への生命の安全の確保
- ・生存の欲求（生理的欲求）睡眠、排泄、食欲、性欲・・・

若者の成長動機は、自己実現の喜び、達成感である。欲求段階説の上位行動エネルギーは自己実現であると学習してきたが、高齢になっても最後まで残るのは、知的好奇心だ。

奈良産業大学の文化祭に、NHKアナウンサーの松平定知氏が来た。「その時、歴史は動いた！」という番組の制作の裏話、こぼれ話を講演された。そのテーマは、衝撃的で「歴史は、勝者が創る！」織田信長の鉄砲使用の初めての戦い、『長篠の戦い』についての疑問があった。当時の気象状況（大雨で火縄銃は使用困難）泥濘の戦場など、分析すると三組の鉄砲隊の鮮やかな戦いぶりは、『勝者の創作でないか？』との疑問がある、とのこ

とだった。講演の内容は素晴らしく、会場は満員であったし、参加者は満足していた。400人ほどの満席の8割以上の参加者が三郷町や王寺町の高齢の住民で、学生の参加比率が少なく講師も地域住民の多さに驚かれた様子だった。しかも、「車椅子や杖をつき」早くから入場していた熱心な高齢者の多いことに、著者も驚いた。この講演から2つのことを学んだ。

『体が動かなくなっても知的好奇心、学びたいと言う知識的欲求は衰えない』ことと『歴史は勝者が創る』、『新しいトレーニング理論は、メダリストのトレーニング方法や練習の工夫が創り、科学者が後から検証証明する』スポーツ科学の研究史を学べば同じ流れであることが良く理解できた。

Ⅲ 結論（結び）

・スポーツを通じた人材育成の視点

今社会が求める人材は、社会人としての常識を身に付けていて、しっかりとした基礎学力に支えられ、市民の一人として社会が抱える諸問題を発見し、新しい問題に仲間と共に粘り強取り組み解決出来るリーダーになれる人材である。つまり、内発的に動機付けられた強い意思で、自分の考えを仲間に伝え巻き込み行動でき、知識（知的学習）と経験（試行錯誤と修正）積むことにより、新しい課題・問題解決の能力備えた集団を形成できる中心的人材ということになる。そのためには、自分自身で本質を見抜くために、観る、診る、視る、看る、覧る、試みる・・・能力が必要であろう。

組織で意思決定判断する時、大切なことは、「誰が正しいかでなく、何が正しいかで判断すること¹⁾」である。パレト法則（2対8の法則）民主主義の危険性を知ることが大切であり、多数決の中身が問題である。当然、たった一人での判断は危険である。バブルの破綻、リーマンショックなど多くのワンマン経営者による会社の経営失敗・破綻を目撃してきた。スポーツを通じた人材育成に関わる指導者はこの視点を忘れてはならない。

・自己実現と自己の存在感と生きがい、個人の欲望を皆のために抑え我慢する生き方

ただここに在る（存在物）＝>生き物として居る（生物）＝>人として存在する（人間）＝>仲間共に生き、人間の組織の一員として行動する＝>他の種と共に生きる（地球人・コスモポリタンとして）環境・生態系の維持を考える生き方がある。あなたはどの生き方を選びますか？今のままの生き方で良いと思いますか？

経済優先の考え方では原子力発電所はなくなる、ドイツで全面廃止の議決された考えかたは、『経済より優先すべき重要な視点から、人類の生き様を考える必要がある。』このことに合意した結果、全面廃止が決議出来た、とニュースでメルケル首相は伝えていた。

「自己実現のレベルと健康で充実して生きた時間の積が人生の価値である」と考えることができる。自己実現は、仲間と共通の実現課題を成し遂げたとき、個人的な喜び成就よりさらに大きい。

「人を動かす力」は、「内発的動機付けを促す力」として発揮されなければならない。

「自己で意思決定できる力」は「自立した人材の自己育成（自己教育力）の力」となる。

・我田引水の責任

スポーツを薦める3つの命題は、「必ずしも～であるとは限らない」、「～であってほしい、が、しかし現実には問題がある。」の意味であった。我が田に水を引いた責任者には、田を管理し、作物を育み、育て、流通に載せ、消費者により良い作物を届ける責任がある。

この理想を現実にするために、スポーツ指導者、実施を支援する者が十分理解し、謙虚な反省と点検を絶えず繰り返すことが必要である。指導受

ける青少年にその真意を学ばせ、理解させ共有できるようにし、そのマネージメントサイクルを機能させなければならない。

参考文献

- 1 上田惇生、『100分de名著「ドラッカーマネジメント」』、NHK出版、2011年6月1日
- 2 上西康文編著、「スポーツビジネス戦略」第2版、大修館書店、2003年9月1日
- 3 小野三嗣、「健康と体力の科学」、大修館書店、1975年
- 4 公開講座資料（2006年）、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会主催教職員研修会、（幼稚園、小学校、中学校、高等学校教職員対象）
- 5 公開講演資料（2007年）、大津市清風町清風サロン（老人会）
- 6 公開講座資料（2011年）、奈良産業大学、リーベルカレッジ王寺
- 7 高等学校出張講義資料（2006年～2011年）、高野山高校、市立和歌山高校、紀央館高校、二階堂高校、広陵高校、西和清陵高校、堺東高校、東大阪柏原高校、南丹高校 他
- 8 永井洋一、『スポーツは「良い子」を育てるか』、NHK出版、2004年6月11日
- 9 野村克也、「野村ノート」、小学館、2005年10月20日
- 10 野村克也、「無形の力」、日本経済新聞社、2006年3月20日
- 11 原田宗彦編著、「スポーツ産業論入門」第3版、杏林書院、2003年4月1日
- 12 ミズノ株式会社広報宣伝部、
「ミズノ創業100周年記念誌 MIZUNO SPORTS DERAMS」2006年1月
- 13 山下秋二・原田宗彦編著、「スポーツマネジメント」、大修館書店、2005年4月1日